

平成29年度第3回山梨県スポーツ推進審議会
会議録

1 日時 平成30年2月9日(金) 14時05分～15時00分

2 場所 山梨県庁防災新館 3階 教育委員会室

3 出席者

(1) 委員 9名

秋山知子、飯田忠子、大崎恵介、川上琴美、小林仁、佐野夢加、鈴木昌則、
相馬知恵子、土屋ひとみ

(2) 教育委員会事務局

スポーツ健康課長、総括課長補佐、主幹、課長補佐2名、担当1名

4 傍聴者等の数 なし

5 会議次第

第3回審議会

(1) 開会

(2) 議事

(3) 閉会

6 議事

[報告事項] 山梨県スポーツ推進委員協議会からの意見集約結果

[審議事項] 県立八ヶ岳スケートセンターの今後の運営の方向性(案)

7 議事の概要

(議長)

報告事項の「山梨県スポーツ推進委員協議会からの意見集約結果」について、資料1
により説明。

(委員)

資料に「施設の利用者拡大に全面的に協力していく」とあるが、話し合いの中で具体的にどのような協力をしていくという案があったのか。

(事務局)

子どもたちをバスで連れていくとなると、全県的には遠距離になる可能性がある。そ

ここで、市町村教育委員会と連携して、安心・安全に子どもたちを連れて行けるように、アクセス関係を地域で協力してやっていきたいという案がでた。

こうして、各27市町村のスポーツ推進委員から「継続賛成」という前向きな意見をもらい、ウインタースポーツの強化を図っていくことに大賛成をしていた。県で示していただいた方向性に感動を受けており、良かったと思っている。

(委員)

先ほどの話の中で、地域で何か活動をしていくということだったが、現場に行ったときに指導ができる人はいるのか。

(事務局)

昔、富士吉田のみなさんはスケートをしていた方が多かった。その方たちがスポーツ推進委員になっているので、協議会としても、指導研修会をして現代のスケート発展にあわせる事業をしていこうという話がでている。山中湖の推進委員の中にも経験者もいることから、こうした人たちを人材バンクで拾い上げて、八ヶ岳地域でも指導をしていきたいと考えている。

(委員)

スケートは特殊なスポーツであり、安全を考える上で指導者育成は急務である。日本スケート連盟にはフィギュア・スピード・普及部という3つのカテゴリーで成り立っており、この普及部が各都道府県の指導者を養成している。山梨県内には、はっきりした数字ではないが、指導員が4名、準指導員が甲府を中心に20名弱いる。隔年で指導者育成のための普及部の資格を取得できる講習会をしている。子どもたちが学校行事や育成会でスケートを行ったときに、安全で楽しく滑れるような指導をできるように、組織として指導員を増やしていくことが必要だと考える。

(事務局)

スポーツ推進委員も専門的な方ではないので、スケート連盟と連携・協働しながら、子どもへの指導の安全管理をしていきたい。

(議長)

次に、「県立八ヶ岳スケートセンターの今後の運営の方向性(案)」について、事務局から説明する。

(事務局)

資料2、3について説明。

(委員)

学校におけるスケート教室は学校行事であると思うが、学校体育におけるスケートの位置づけを教えてほしい。それによっては、北杜市だけではなく、県内のいろんな学校がもう少し利用するのかなと思う。

(事務局)

学校体育は学習指導要領に則するという原則がある。学習指導要領の中で、冬季スポーツについても地域の実情に応じて広く経験をさせるという記述がある。今までも学校をあげてのスケート教室や、北杜市や富士吉田地域などでは、体育の授業の一環としてスケートを行っているケースもある。

(委員)

先ほども話したが、学校の先生が滑れない。大学体育が必修でなくなった時代から、教育学部を持っている大学で、スケートの授業を行っていないという状況がある。必修時代は、スケートの授業を合宿で行い何単位ということもあった。全国大学スケート研究会で現在調べているが、全国でも大学で指導者を養成することが少なくなっている。学校体育に導入するには、その前の段階の指導者養成をしなければいけない。私の研究室や県スケート連盟普及部には、甲府の小瀬アイスアリーナで行われているスケート教室の指導者要請が毎日のように来ている。指導者の育成が急務だと感じている。

(委員)

先ほど小学生もスキー教室に移行してきているという話があったが、スキーの方は指導者がいるからなのか。学校の先生がスキーなら滑れるからということなのか。

(事務局)

学校によっては小学校高学年からスキー教室があるところもあるが、それぞれのスキー場には指導員がいる。したがって、先生が滑れなくても、その指導員が何十名を相手に指導してくれるということがある。

(委員)

私は南都留にいるが、出身は富士吉田である。以前は、郡内地区は保護者がスケートを滑ることができたので、保護者がボランティアでスケートを指導していた。今は、外から来る人もいて富士急ハイランドにお任せという状況。富士急ハイランドで学生アルバイトを雇っていて、その方に教えてもらっている。

(事務局)

ハヶ岳スケートセンターに関しては、小学校のスケート教室が今以上に来た場合には、

峡北スケート連盟や県スケート連盟の方に、指導者の派遣に協力していただけている。

(委員)

先ほどの意見を聞いていて、施設に行ったときに何か指導してもらえる環境があることが大事だと思った。私も小さい子どもがいるが、自分が経験したことがないと、なかなか連れて行くことができないということがあるので、それが上手くできればもっと利用が増えると思う。

「施設の割引制度」ということで、ちらしをいただいたが、県内のどこでパンフレットをもらえるのか。また、八ヶ岳のアウトレットの利用者はどんな方が多いのかを考えると、ペットを連れていく方が多かったり、年配の方や県外から来ている人もいる。この割引は高校生以下ということだが、子どもは大人と一緒にないところまで来ることができないと思う。

スケート合宿で利用者を増やすことはすごく良いと思っている。私が利用していた都留の施設も甲府の人からみれば遠いところにあり、平日の利用をどうするか考えた時に、毎日頻繁に施設を利用してくれる人がいないと施設を維持することは難しく、近隣の学校単位で借りることが多かった。

周囲に緑もたくさんあり合宿を行うには良いところだと思うが、近隣に泊まれる場所があるということが重要。都留の方では大勢で一斉に泊まれるところがなく、大学の教室に布団を敷いて寝ていたこともあった。それでも都留でやりたいと思ってくれる学校があれば利用していただいていた。スケート合宿にあたって、バスを使って宿まで行くとなると大変なので、遠くではなくて近隣に合宿ができる施設があることが大事。「ここを利用したらとてもよかった」ということが広まっていけば、利用者は増えていくと思うので、合宿ができる場所があることが大切である。

(事務局)

お手元に配ったちらしについては、これは私どもで急遽作ったものであって、貸靴が半額になるというものである。そもそも施設の方で、貸靴半額券がついたパンフレットを作成しており、八ヶ岳アウトレットや、八ヶ岳ペンション連合会、中央道談合坂サービスエリアなど観光商業施設71施設で配布し、宣伝している。それを補完する意味合いで、当課でちらしを作り、皆様にお配りさせていただいた。

そのほか、パンフレット以外に、アウトレットのレシートや観光情報誌「山梨めぐり冬号」などのフリーマガジンを持参すれば、貸靴料金が半額になるということも行っている状況である。

また、宿泊場所については、近隣の商業宿泊施設やペンション連合会等と連携しており、そういったところをご利用いただけている。

(事務局)

補足すると、通常サービスエリアや商業施設に置いてあるのは青いパンフレットである。お手元に配付したちらしは、今ちょうど平昌オリンピックがあり、子どもたちがスケートを見る機会がある。小学生がテレビを見てスケートをやってみたいと興味を持つのではないかと考え、センターの営業は18日までなので、甲府、韮崎、甲斐、南アルプスの小学生に対して2万3千枚ほど配布したものである。

(委員)

合宿は一泊ではなく、何泊もするもの。金銭的に学生でも泊まることができるように検討していただければありがたい。

(事務局)

合宿に関しては、北杜市や北杜市体育協会の方で東京の大学からスケート合宿を誘致したいということ。学生なのでなるべく金銭的には安いものが良いと思う。こういった意見があったことを、関係者が集まる会議等で伝えさせていただく。

(委員)

利用者増への取組について、一つのアイデアだが、例えばスケートセンターを利用したら、周辺の飲食店のコーヒーが一杯無料になるというような、逆の発想もあると思う。こういうことは、スケートセンターだけではなく、地域の振興にもつながると思うので、広い取組があってもよい。1,500人増やすということは、いろんなアイデアを出していかないと厳しいと思う。また、スキーの帰りにスケートはどうか、というように富士見など近くの他の施設と連携するような取組もあってよい。そばを食べようというイベントがあればそこに一緒にスケートも、というようなつながりをもったアイデアがあればよい。

もう一点は、スケートセンターそのものに魅力がなければいけない。せっかく行っても、ただ寒くていやだとならないように、個人で行ったときに、パンフレットに記載されている日曜日午後の無料レッスンを土曜日にも拡大するとか、回数を増やすとか考えられる。それから、拡大策のなかに「一流選手とのスケート教室」とあるようだが、一流選手の滑りをみて子どもが「こういうふうに滑ってみたい」というのがあると思う。市体育協会を考えているように、単にスケートだけではなく、氷上スポーツなどをもっと大々的にやるなど、魅力あることをやっていかないといけないだろう。ぜひ、このアイデアをもう少し広げていくものを検討いただきたい。

(事務局)

貴重な意見をありがとうございます。北杜市をはじめとして、30年度からの利用者増の計画をたてている。例えば、「訪日外国人の誘致」とあるところは、ペンション協会や

長野県富士見町、原村といったところと連携するもので、八ヶ岳観光圏という八ヶ岳全体の観光を振興していくところと連携していく、ということ。よりよいアイデアで魅力のあるスケートセンターにしていきたい。

(委員)

貸靴半額というのは、初めてやる人や靴を持っていない人たちに向けたもの。可能かどうか分からないが、合宿ということを考えると彼らは靴を持っているので、リンク代を半額にするということとはできないか。東京都内は本当にリンクが足りないという状況があるので、リンクが安いとか、貸切がとりやすいということがあれば、利用が増えるだろう。小瀬アイスアリーナも団体であれば貸靴が半額になることもあり、スケート教室をするときにも安くなる。

できれば、リンク代も安くしていただくとありがたい。

(事務局)

八ヶ岳スケートセンターについても、団体割引がある。30年度から考えているのは、貸靴半額券に加えて、北杜市が入場料の割引を行う。一日の料金を840円のところを、団体料金と同じ630円にし、貸靴券と両方の割引券を持ってくるとかなり軽減をするというサービスになる。現在、貸靴半額券を利用する人が年間3千人程度いるので、その半分くらいは更に人が入ってくれるのではと考えて、34年度は1,500人増やすという計画を立てている。八ヶ岳スケートセンターでは、スケート教室の時には安くなっているという料金体系になっているので、今回は一般の観光客をターゲットにし、利用料割引制度で人を増やすというのが、今回の計画の目玉となっている。

(委員)

パンフレットを配布しているとのことだが、インターネットをみてそれを印刷して持っていけばよいというようなサービスはないのか。

(事務局)

今のところはそういったものはない。施設と相談しながら今後検討していきたい。

(委員)

インターネットやホームページでそういったことができれば、その場所にパンフレットを持ちに行ったり、その地域に住んでいないともらえないということがなく、東京からの利用者も増えると思う。

(事務局)

東京方面への集客ということでは、例えばJAFの会員証を提示すれば貸靴が半額にな

るといようなサービスも行っているところ。

(委員)

せっかくのサービスなので、それをもっとたくさんの人に宣伝し、誰にでも利用できるような形をとってもらいたい。

(事務局)

例えば八ヶ岳で遊びたいとなったときにセンターの情報が紹介されるように、JTBにも、情報を掲載してもらえるように交渉をしているところ。そこに割引券があると首都圏の人も来てもらえる可能性も上がると思う。ホームページに割引券をつくるということも検討していきたい。

(委員)

観光会社と組んで、慰安旅行などで八ヶ岳にきてアウトレットに行ってスケートをするというパッケージ旅行をつくれれば、親子連れなど増えていくと思うが、こうしたコラボレーションなどは検討しているか。

(事務局)

山梨県観光推進機構に旅行会社の方もいるので、実際に施設をみてもらった。委員の言われるように、魅力のあるツアーのひとつになるかまだはっきりとわからないが、アクションは起こしている。

(委員)

東京の人にとっては、景色をみて滑るということはいい経験になると思うので、そういう方向でも検討いただきたい。

(議長)

委員も一度実際にスケート場に行ってみて、また何か良いアイデアがあったら県の方に伝えていただきたい。

内容についてご議論をいただき、ありがとうございます。他に意見もないようなので、今後の運営の方向性について、事務局案のとおり意見を集約させていただく。

(事務局)

活発な議論をありがとうございました。意見集約をいただいたので、これを踏まえて、県教育委員会で最終的に決定をさせていただきたい。山梨県スポーツ推進委員協議会からも意見集約をいただき、このなかに付帯意見もあり、センター存続にはすべて賛成ということだったので、こうしたことを十分受け止めて、スケートセンターをどうするか

決めていきたい。

(議長)

子どもたちのスポーツの振興を含めて、子どもと家族で施設に行き、スポーツに触れてみるということが大切であると思う。子どもたちの環境を作っていくことは、行政と学校と地域が一体感を持って結びつきをもっていかなければいけないこと。スケートセンターだけではなく、すべてのスポーツが連携・協働して、みんなの意見を聞きながら一歩でも前に進めるようにしていきたい。このセンターが商業的にも観光的にも相乗効果をあげて、子どもたちがこの中で育成され、明るい地域が作られていくようになってほしいと思う。

(以上)